

「札幌の子育てを考える連続ワークショップ」の報告

1. 概要：

(1) 目的：

子育て中の札幌市民や、子育て・子育て支援を行っている方々から、子育て・子育て支援に関する本音を引き出すとともに、市民目線から課題解決の方策を探ること。

出された意見や方策は(仮称)「札幌市子ども・子育て支援事業計画」検討の参考とする。

(2) 参加者：

種別	概要	人数
子どもの保護者	●平成25年11月に実施した「子ども・子育て支援ニーズ調査」アンケート回答者6,208名より抽出した就学前児童の保護者。 ●父親、母子家庭の母親、障がい児を持つ親を含む。	15名
子育て支援活動団体関係者	—	4名
児童会館スタッフ	—	2名
保育士	—	2名
幼稚園教諭	—	2名
学生	●北海道大学大学院在籍者4名、札幌大学在籍者1名。	5名
計		30名

(3) 各回の実施日時・会場・内容：

第1回「子育ての不安や課題を話し合いましょう！」

■日時：平成25年12月22日（日）14:00～17:00

■会場：北海道立道民活動センター かでる2・7 10階 1030会議室

■目的：子育てをする中で感じている不安や課題の抽出。

■実施内容：

- 札幌市の計画体系、「札幌市子ども・子育て支援事業計画」の概要説明
- ワークショップ全体の概要説明（趣旨、目的等）
- 参加者自己紹介
- グループワーク：5テーブルに分かれ「子育てをする中で感じている不安や課題」について抽出。

■検討成果：

- 5テーブルで作成した5枚のワークシートを検討した結果、「子育てに関する課題」について5つの分類に分けることができた（別紙1参照）。

第2回「課題の解決策を考えましょう！」

■日時：1/12（日）14:00～17:00 / ■会場：かでる2・7 7階 730会議室

■目的：子育てに関する課題を解決する取り組みのアイデアの抽出。

■実施内容：

- 前回の検討結果の報告（振り返り）
- グループワーク：
 - ・前回出された5つの「子育てに関する課題」をそれぞれ5つのテーブルに割り当て、これらの課題を解決するために考えられる取り組みのアイデアを抽出。
 - ・グループワークは、前回同様のグループメンバーで割り当てられた課題について検討するRound1、自分の興味のあるテーマのテーブルに移動して検討するRound2の2ラウンド実施した。

■検討成果：

- 5つのカテゴリーに分類される24の「取り組みのアイデア」が出された（別紙2参照）。

第3回「子育てしやすいまちづくりのために、何が重要か考えましょう！」

■日時：1/26（日）14:00～17:00 / ■会場：かでの2・7 10階 1030会議室

■目的：特に重要だと考える取組（重要プロジェクト）を抽出すること
「重要プロジェクト」を具体化する方策について検討すること

■実施内容：

- 前回の検討結果の報告（振り返り）
- 情報提供：協働型まちづくりの概要、札幌市の財政・人口の状況・推移について
- 全体ワーク「重要プロジェクトへの投票」：前回出された「取り組みのアイデア」の中から「重要プロジェクト」を決めるため、参加者がシールで投票。
- グループワーク：
 - ・「重要プロジェクト」（投票結果が5位以内のもの）について5つのテーブルに割り当て、参加者は自身の興味のあるテーブルに移動。「重要プロジェクト」を具体化するための方策について検討した。
 - ・「取り組みアイデア」としては「制度構築」的な側面が強いもの、「取組（事業）」としての側面が強いもの、双方の要素があるもの、3種類が出された。よって、それぞれについて下記の「お題」を与え検討を行った。

【制度用】より具体的に制度を提案する！

- ①どのような制度にするのか？（付加すべきことがら など）
- ②制度を受けられる要件は？（どういった人が受けられるのか？）
- ③制度実施に当たって解決すべき課題、課題の解決策
制度に伴い発生する課題（公平性、民間等への影響）、課題の解決策

【取組用】より具体的に取組みを企画する！

- ①何を行うのか？（付加すべきことがら など）
- ②いつ行うのか？
- ③どこで行うのか？
- ④誰が行うのか？ / 誰に対して行うのか？
- ⑤どれくらい行うのか？
- ⑥どのように実現していくのか？ / 課題、課題の解決策

■検討成果：

- 全体ワークにより、参加者が考える「取り組みのアイデア」の順位付けができた（別紙3-1参照）
- グループワークにより「重要プロジェクト」について具体化に向けた検討を行った（別紙3-2参照）

(4) 実施風景：



参加者による自己紹介



アイスブレイクを実施



グループワーク

別紙1
札幌の子育てを考える連続ワークショップ～第1回 子育ての不安や課題を話し合おう！ ワークシートのまとめ

①仕事と子育ての両立、ワークライフバランス：

自分の時間がない：
●一人の時間がない
●自分のことは後回しになってしまう
●子どもが元気づげて疲れる。ゆっくりしたい
●専業主婦でも気軽に預けられる場所があれば

子育てに費用がかかる：
●しっかりした教育を受けさせられる経済的余裕があるか心配
●習い事の費用が高い
●保育所・幼稚園に預けて働くと赤字になってしまう

子育てに助成を：
●子育てにかかるお金の助成を
●子どもの医療費、できれば無料で

仕事と子育ての両立が難しい：
●働きながらの子育てが難しい
●働きたくても預ける場所がない
●仕事がなかなか終わらず帰宅が遅くなってしまふ
●両立が難しく働き方を変えざるを得ない
●育児休暇が終わるときに保育所に入れるのか不安

子どものそばにいたいのに：
●子どものそばにいたいのに働かざるを得ない。手当があればいいのに
●なぜ「働く＝預ける」しか選択肢がないのだろう。一緒にいられる仕組みがあれば
●子どもと過ごす時間が少なく愛情が足りているか心配

夫の関わり：
●仕事が忙しくて子育てに関わってもらえない
●父親とあまり関わっていない子どもは男性が怖くなるようだ

企業の課題（子育て支援）：
●育児休暇がないので2人目は難しい
●子育てしながらフルタイムの仕事は難しい
●子どもが病気で仕事も休めない
●働く母親に企業の協力が必要
●夫の会社の（子育てへの）協力が少ない
●男性の育児。短期間でもとれば良い

労働規制の強化を！：
●仕事は17:00まで！とか国レベルで規制があれば
●カナダは必ず父親が17:00に帰ってくる

もやもやした不安・ストレス：
●子育てについてネガティブな会話が多くなってしまふ ●子育てのコツはあるのか？
●男は何をすれば良いのか？ ●子どもの発達状況に不安がある ●子育てのストレスがある
●イライラしたときに発散できない ●子育てに見通しがもてない
●子育ての不安が何であるのかかわからない ●幼稚園での生活が不安

学校教育への不安：
●「この人、大丈夫？」という先生がいる
●部活の顧問をしてくれる先生がいない

③子どもの預け先：

保育所・幼稚園の課題：
入れない：
●認可保育園が定員で入れない
●4月でなければ希望する認可保育所に入りづらい
●保育料が高い。無認可だと特に
●幼稚園も定員がすぐ埋まる。プレ入園が必須
●現在預けている保育所が自宅から遠く登園が大変
●近所に預けられる保育施設が少ない

延長保育・一時保育の課題：
●延長保育の時間が短い。休日は嫌な顔をされる
●一時保育がいっぱいで利用できない
●一時保育の料金の高さ、数不足をどうにかして
●一時保育に預けたい子が不安がらないか心配

その他：
●保育所・幼稚園が土日祝日もやっていたらいいのに
●保育園に預けるための規定が良心的ではない（料金も含め）
●保育所の入所条件がバラバラ
●保育所入所資格を緩和して
●保育所で外国人の子どもに日本語を教えてほしい
●保育士さんたちの能力（経験）不足

小学校入学・通学時の課題（小1の壁）：
●小学校入学後の預け先があるか不安
●学童保育もいっばいで入れないと聞く
●小学生の放課後の行き場所がない

児童会館の課題：
●開館時間と子どもの生活リズムが合っていない
●専業主婦・パートの子は行きにくい雰囲気がある
●近くに日祝日に開いている児童会館がない

中学校以降の課題：
●中学生になってから放課後を過ごす仕組みがない

緊急時等の預け先がない・知らない：
●何かあったとき子どもをお願いできる人がいない
●病後児デイサービスの料金が高い・場所が少ない
●子どもが病気のときはどうすればいいのか
●妊娠中の子どもの預け先があれば

親には預けられない：
●親が遠方に住んでいて預けられない
●親はすでに亡くなっている
●親に「預けに来るな」と言われる

特に支援が必要な子どもたちの課題：
●不登校の子たちに学校以外の居場所が少ない
●発達障がいを持つ若者の居場所がない ●発達障がいの診断医が少ない
●障がいを持った子とそうでない子が一緒に過ごす場がない（分けられている）
●グレーゾーンの子どもへの支援がほとんどない

④地域での子どもの居場所：

地域に子どもを見てくれる人がいない：
●地域の見守りがほしい
●身近に子どもをみてくれる人がいない
●ご近所の力・地域の力
●地域での居場所
●子育て中の親や地域の人が集まって、地域で子育てをする場が少ない
●子育て中の母親が力を発揮できる場が少ない
●（地域に）「じいじ」「ばあば」がほしい

子育てサロンの課題：
●午後の部があれば良い→実は午後もやっている
●子育てサロンに来られない母親へのフォロー、アウトリーチが少ない
●双子の母向けの特別なフォローがない

運営側の課題：
●常設子育てサロンの運営が厳しい
●子育て支援者の質の確保が厳しい
●子育てをサポートする人材育成資金がほしい！

②信頼できる情報・相談先：

情報がない・伝わってこない：
●近くにどんな預け先・施設があるのか分からない
●支援制度の内容が分からない
●一時的に子どもを預かってほしいが分からない
●情報の手に入れ方がわからない
●病院について知りたい情報が得にくい（例：ワクチン接種の料金）
●子どもが病気のときどうすればいいか分からない

情報の混乱・氾濫：
●上の世代と子育ての仕方が違うのでたやすく聞けない（例：母乳にはお餅が良い／悪い）
●ネットには子育て関係の情報が多すぎて混乱する

相談する人がいない・つながりたい：
●子育てで悩んだらどこに相談すればいいのか？
●相談相手がどこにいるのか分からない
●話し相手がほしい（知り合いがいないので）
●おやつとのえ方について相談できる人がいない
●知り合う人が地域の人に限られる ●ママ友がいない
●働くママのママ友をつくる場所が少ない
●お母さんにもっとつながりを ●家にこもりがちになる
●「子の成長」を相談すること自体ハードルが高い
●困ったときに頼れる人がいない

●自分から求めないと情報は得られない

医療機関の課題：
●病院（特に小児科）が充実していない
●夜間の当番病院が混んでいる。遠い

行政の対応が悪い：
●行政が冷たい
●保健センター・検診時の保健師・医師の対応が悪い
●保育所の相談窓口がきめ細やかでない
●柔軟な対応をしてほしい
●行政窓口が土日祝に開いておらず不便
●区役所の窓口の待ち時間が長い。大変！
●窓口に行かなくても済むようになれば

「お出かけ」しづらい：
●赤ちゃん連れは外出しにくい
●雪道を子どもと外出するのは不安
●タテ・ヨコの移動が大変
●公共交通での移動も大変（子どもがぐずる、優先席が空いていない）
●子連れで気軽に入れる飲食店があれば
バリアフリー化を：
●知らない場所に行くときに授乳室や子どもも使えるトイレがあるか心配
●車がないので雨や雪のときの登園が大変
●まちに自由に使えるベビーカーがあれば
●男性用トイレもベビーカーが入るようにして

⑤多世代交流・親育て：

多世代の交流が必要：
●子育てママ同士の関係がうまくいかないときに不安になる
●同世代の人だけが集まる場だと比較して辛くなる
●多世代との交流があった方が良い
●子育て中は子どもだけではなく大人とも会話したくなる
●交流（出会い）の力、場の提供の必要性

「親育て」の必要がある（支援側からの声）：
●テレビ、ゲーム、スマホ…。子ども・親とも大丈夫？
●最近、お母さんに心の壁を感じる
●昔より「自己実現」を目指す／一人の時間（買物・趣味）を優先するお母さんが多い
●親が仕事をしている中で、子どもが愛情をしっかり注がれているか心配
●家庭の状況、お母さんが子どもとどう遊んでいるかが見えない（連絡ノートに書いてこない）

遊ぶ→生きる力につながる：
●子どもの体力づくり
●北海道の環境は良いのに生かされていない

別紙2 札幌の子育てを考える連続ワークショップ～第2回 課題の解決策を考えましょう！ ワークシートのまとめ

第1回で出された
子育てについての課題

課題① (Dグループ)
仕事と子育ての両立、ワークライフバランス

課題② (Aグループ)
信頼できる情報・相談先

課題③ (Cグループ)
子どもの預け先

課題④ (Eグループ)
地域での子どもの居場所(つながり)

課題⑤ (Bグループ)
多世代交流・親育て

企業・社会が子育てを支援する環境づくり

企業+行政

子育て中の親に関する労働規制を設ける・改善する：

- 企業・国が子育て中の親の就業時間を決める
- 週に1回でも「仕事は17:00まで」と決める
- 育児休暇をより長く取れるようにする
- 子ども・家族と過ごす時間や日数を規定する

制度

企業内保育を充実させる：

- 社内託児がある企業を増やす(そういった企業へ助成する)
- 多少、仕事で遅くなくても同じ場所にいるので安心
- 会社に病児をみてくれる看護師さんがいると休まなくてすむ
- 社内保育施設があると同僚の理解も得られるようになる(子育て大変だな…など)

取組+制度

子育て(支援)に関する企業(内)の意識を変える：

- 子どものいない社員を啓発する研修の実施
- (子育て者を)フォローしてくれる人への評価をしっかりとる
- 会社に子どもが参観する「子ども参観日」を設ける

取組+制度

「子育てパパ」啓発：

- 家事・育児は夫婦双方の努力・協力が必要だという啓発
- 「子育てパパ=カッコいい!」のイメージ戦略(クールビズ的に。チームNACSの起用)
- 夫の関わり的重要性を説くセミナーがあると良い
- パパと子どもが参加できるイベントの開催

取組

保育料の減免・子育て給付金など、子育て世帯への経済的支援をする：

- 子どもが成長するとかかるお金も多くなるので18歳まで子ども手当を増やす
- 保育料は所得に関わらず無料にする
- 3~18歳までの教育の義務化・無料化

制度

子どもの預け先の充実

行政

認可保育所や幼稚園に入りやすくする(増やす、入所・入園条件の緩和)・より利用しやすくする：

- 早朝、深夜に預けられる認可保育所の増設(働き方の多様化に合わせて)
- 入所条件の統一化・透明化
- 育休明けには必ず保育園に入れる制度を作る
- 保育所入所の義務化(ハンガリーでは義務教育化された)

制度

保育士・幼稚園教諭の能力を向上する・就労環境を改善する：

- 能力・経験がある保育士さんはシニア世代になりつつある
- 保育士の正職員の枠が少ないので増やす

制度

一時預かりの充実：

- 土日祝日、夜8~9時まで預かってくれるところが少ない
- 子育てサロンや児童会館で一時預かりをする
- 就活中の親への一時預かりの充実
- 一時保育利用券を配布し、利用しやすくする

制度

病児・病後児の預かりサービスの拡大：

- 病院・診療所の一室を預かりできる場所へ
- 親が病気の時、送迎してくれる預け先があれば

制度

小学生の預け先・居場所の充実(場所、サービス)：

- 各小学校に放課後も預けられるスペースがあれば
- 家庭的保育事業(保育ママ)の小学生版。ミニミニ児童会館的な
- 児童会館でも給食が出ると良い(夏休み、冬休みに)
- 誰でも利用できる学習室(東京都では空き教室を自習室として開放)
- 現在ある資源を活用する

制度

居場所づくり

市民+行政

もっと公園(など)を「居場所」として活用：

- 公園を集まりやすく整備
- 公園の協働除雪などを通じた交流
- 小学校のグラウンドを開放する
- プレーパーク、スノーキャンドル

取組

「屋内の居場所」を整備する：

- 屋内公園を作る
- 既存施設の活用(小学校、保育園、幼稚園、町内会館などを室内の遊び場として提供・開放)

取組

「子育てサロン」を増やす・機能をより充実・強化する：

- ちあふる的な施設の充実
- 親子が好きな時間に行けるよう子育てサロンの回数を増やす
- 子育て支援ができる場所の活用
- 子育てサロンに地域支援の役割を持たせる(地域機能強化型。地域の人材発掘をする「地域コーディネーター」を置くなど)
- 「仲よしこども館」の復活(合わせて、シニア・外国人ボランティアが格安で英語などを教える)

取組

市民による「居場所づくり」や「子育て支援」の活動をバックアップする：

- 子育てサロン・地域サロンを開きたい人のための相談窓口を開設
- まずは施設間のつながりを深める
- 子育て支援施設間の調整役を置く

取組

「地域での子育て支援の取り組み」支援ファンド(基金)を設ける：

- 民間の寄付+地域の出資+行政の支援(補助)

取組

情報・相談

市民+行政

子育ての情報が何でも揃い何でも相談できる「ワンストップ窓口」を設ける：

- 中学校区くらいに1つずつ地域の子育て情報センターをつくる
- 親が子育てに困ったときに気軽に相談できるサポートセンターがあると良い(電話でも相談できると良い)
- 行政で案内=安心感がある
- 「顔」が見える案内、顔の見える人からの情報がほしい
- ふらっと行ける雰囲気(保健センターに行っても節電で暗い)
- 情報のコーディネーターを育てる(必要がある)
- 「私の町の保育班長」…韓国ソウル市等の例。コンシェルジュ+α

取組

「子育て情報・相談ステーション」として民間企業・店舗を活用する：

- 民間企業との連携(コンビニ、マクドナルドなどの活用)
- 「子ども110番の家」のように「子育て相談110」をつくる

取組

子育て情報の発信・共有のためインターネット(ツール)を活用する：

- ママ友の集まりもネットで調べている
- ママ友の集まりを活性化できるのでは
- 情報共有の「機会」と(情報の置き)「場所」だけネットで
- SNSの上手な活用

取組

遊び場・居場所・公園についての情報を提供する：

- 遊び場の情報をスマホ・PC用に分かりやすく発信
- まちづくりセンターに情報を掲示

取組

「母子手帳」さらに充実プロジェクト：

- 子育てにかかるおおよその費用を記載
- ライフサイクルに応じてかかる費用・受けられる助成がわかる

取組

交流、(交流による)教育

市民+行政

地域に多世代交流の場を設ける：

- むくどりホームの事例(バリアフリー公園+ふれあいサロン)
- どんな小さなことでも聞いてくれる人がいる、何かあったら逃げこめる・相談できる場所
- 子育てに悩みを抱えている方同士の交流の場を設ける
- 子どもを預けて親だけでコミュニケーションできるサロンがあれば良い
- 同世代以上に異世代との情報交換が役立つ
- 「子育て」に限定しない・子育て世代に限らない居場所
- 「行かなければいけない」と追い込まれるようなサロンではいけない
- スーパーなどの片隅におしゃべりコーナーがあるとか
- アクセスの良い場所、身近な場所に設置

取組

人材づくり(育成・ネットワーク・バンク・ボランティア)：

- 支え支えられる循環が大切
- 支援者のスキルアップが必要
- 人材バンクを設ける(有資格者など「ご近所先生」の登録)
- 地域のキーパーソン同士のネットワーク
- 子育てに関わる仕事を行っている方との交流
- 子育てサロンに地域コーディネーターを置く(システムとして)
- 子育てママ同士をつなげられる、顔の見える関係・機会をつくる人
- 子育てサポート・子ども見守りボランティアの活用(組織化・育成)：
- 学生・地域の人にボランティア情報をもっと発信(募集、研修、活動の場)
- 公園に遊びを提供する人を置く

取組

「親育て」のための教室・教育機会を増やす：

- 現在「母親教室」は初妊者しか受けられない(二人目以降も受けられるようにする)
- 子どもが生まれてからも「母親/父親教室」を開く
- 検診時などに合わせて講座を開く
- 「初めての子育て教室/相談会」を定期的に開催
- 父親教室を開催(産後のこと、子どもの世話の仕方など。子育てに関わるきっかけにもなる)
- 子育てに関する道徳的な事柄を教えることも必要
- おじいちゃん・おばあちゃん教室も必要
- 託児付きで
- 子育てに関する啓発チラシを病院・学校・保育園・幼稚園で配る
- 「子育てマニュアル」的なものをつくる

取組

地域での交流・つながりづくりイベントの実施：

- 子育てサロンなどで地域のシニアの方の講演会
- 老人クラブ・町内会などの集まりとのコラボ
- 長期休みに地域会館で「宿題をみんなで頑張りよう!の回」を開催
- 「遊びながらみんなで除雪」イベント
- 防災など住民全員が関わりのある事柄に関するイベント
- 高齢者施設に遊びに行く
- 町内会で行っている行事の情報をもっと公開する

取組

別紙3-1 札幌の子育てを考える連続ワークショップ～第3回 重要プロジェクトの抽出(シールアンケート)結果

企業・社会が子育てを支援する環境づくり

プロジェクト名	得票	順位
子育て中の親に関する労働規制を設ける・改善する	15	3位
企業内保育を充実させる	5	
子育て(支援)に関する企業(内)の意識を変える	2	
「子育てパパ」啓発	2	
保育料の減免・子育て給付金など、子育て世帯への経済的支援をする	2	

→ Cテーブルで検討

情報・相談

子育ての情報が何でも揃い何でも相談できる「ワンストップ窓口」を設ける	9	6位
「子育て情報・相談ステーション」として民間企業・店舗を活用する	1	
子育て情報の発信・共有のためインターネット(ツール)を活用する	2	
遊び場・居場所・公園についての情報を提供する	2	
「母子手帳」さらに充実プロジェクト	3	

子どもの預け先の充実

認可保育所や幼稚園に入りやすくする(増やす、入所・入園条件の緩和)・より利用しやすくする	9	6位
保育士・幼稚園教諭の能力を向上する・就労環境を改善する	5	9位
一時預かりの充実	3	
病児・病後児の預かりサービスの拡大	10	5位
小学生の預け先・居場所の充実(場所、サービス)	3	

→ Aテーブルで検討

居場所づくり

もっと公園(など)を「居場所」として活用	3	
「屋内の居場所」を整備する	2	
「子育てサロン」を増やす・機能をより充実・強化する	11	4位
市民による「居場所づくり」や「子育て支援」の活動をバックアップする	2	
「地域での子育て支援の取り組み」支援ファンド(基金)を設ける	5	9位

→ Bテーブルで検討

交流、(交流による)教育

地域に多世代交流の場を設ける	17	1位
人材づくり(育成・ネットワーク・バンク・ボランティア)	6	8位
「親育て」のための教室・教育機会を増やす	17	1位
地域での交流・つながりづくりイベントの実施	4	

→ Eテーブルで検討

→ Dテーブルで検討

病児・病後児の預かりサービス プロジェクト

①どのような制度？

【前回出されたアイデア】

- 病院・診療所の一室を預かりできる場所へ
- 親が病気の時、送迎してくれる預け先があれば

- 「子ども緊急サポートネットワーク」の拡大、認知度の拡大

●料金について：

- ・有料のサービスであるならば、予約や空き待ちではなく、サービスを必ず受けられるようにしてほしい。

・1時間 1,000円は高い！

対立

・病児（緊急時）であれば高くても良いのでは？

●時間について：

- ・8:00~18:00までは預かってほしい（最低限！！）

・親が迎えに来られるまで見てもらえる
・深夜・早朝の勤務への対応

対立

・保育所と同じ時間でも良いのでは？（緊急時なので）

- その日にすぐ預けられることが大切
- お母さんが病気のときにも預けられるようにしてほしい
- 妊娠中いつでも子どもを預けられる場所が必要

どこで？

●病院

- 近隣の病院（かかりつけ医がいる場であれば）
- 病院を原則としたい（親の安心のため）
- 預けられる病院は限られている
- 病院内の保育所を活用できないか？

●保育所・保育所の近く

- 保育所の近くにあると便利
- 保育所の中にあると親は安心するのでは？
- 保育園から直接病院へ移動させてくれればありがたい

②制度を受けられる要件

- 登録した人
- 原則として小学生まで（中学生以上は預からなくても大丈夫では？）
- 必要なのに受けられない人が出てしまわないよう、個々の事情をよく勘案すべき
- 病児であること（急性、慢性病の発作も含む）
- 保護者が仕事に行かねばならない人（「遊びのため」は×）
- 身近に頼れる人がいない人
- 片親世帯優先にする！（経済的に、仕事に行くことは死活問題なので）

担い手

- 看護師さんに限らなくても良いのでは？
- ボランティアを活用すれば「安く」できるのでは？
- 結構、ボランティア希望者はいるのでは？
- 「見知らぬ人」ではない人に見てもらいたい（安心）
- 地域の人
- 元看護師など。登録ボランティア

③課題

- 申込みが簡略であること
- 感染病の子を預かるリスクをどうとらえるか
- 病院など設備が整っていないと不安
- いざというときの責任問題は？
- サービスを提供してくれる病院への補助金

●かかる「お金」の考え方

- 「登録料」「入会金」はあって良い
- サービス運営の資金として一定の料金は必要
- いざというときの保険料分も必要
- 「お金をとる」サービスであれば「いつでも預けられる」ようにしてほしい
- 世帯収入による料金変動も検討すべきでは？

みんなが参加できる（協力したい人も集まる）子育てサロンをつくろう！！プロジェクト（「子育てサロン」を増やす・機能をより充実・強化する）

①何を？

前回出されたアイデア

- ちあふる的な施設の充実
- 親子が好きな時間に行けるよう子育てサロンの回数を増やす
- 子育て支援ができる場所の活用
- 子育てサロンに地域支援の役割を持たせる（地域機能強化型。地域の人材発掘をする「地域コーディネーター」を置くなど）
- 「仲よしこども館」の復活（合わせて、シニア・外国人ボランティアが格安で英語などを教える）

●子育てサロンは相談や情報交換の場

- 親同士がゆっくり話せる場を設ける
- 年代別・同世代間の交流と、多世代交流の両方を行う（多世代を常態、同世代間をイベント的に）
- 子どもの発達、遊具…などなどについて情報交換

●子育てサロンはお母さんのリラックスできる時間

- 子育てサロン内では母子分離でそれぞれ時間を過ごす時間を設ける（1カ月に1回程度）
- 「親は〇〇講座、子どもは保育スタッフと遊ぶ」など（例：マッサージ講座）

●気軽に利用できる一時預かりサービスを設ける（有料でも）

②いつ？

●毎日開催

- 日曜祝日も開く
- 小学校の長期休みもサロンを開く
- 午前だけでなく午後も開く
- 毎日 10:00～14:00 とか

③どこで？

●利用可能な場所を「子育てサロン」の空間として提供

- 近所の公の施設を借りて（子育てに関わらない場所でも）
- 子どもが思い切り体を動かせる施設
- 児童会館、学校、公園など既存の施設
- 小学校の空き教室を活用
- 学校体育館やグラウンドの活用
- 保育園や幼稚園で体験も兼ねて行う
- 年齢ごとの定員が満たされていない保育園の一室

●建物内ではなく屋外での開催もあり？

- 「青空サロン」
- 出張する「出前サロン」
- 「仲よしこども館」の復活

●交通の便の良いところがあると便利

- 中学校区に1つくらいあってほしい

④誰が？／誰に対して？

●ボランティア等、多様な人に参加してもらう

- ちあふる（など地域をまとめるところ）で人材を紹介できれば
- 時間のあるシニア世代
- 民生委員、小中高学生、保育士、保育士を目指す人々
- 人材育成の場にもなる

●専門分野（栄養士等）が定期的に駐在

- 未就学児だけでなく小学生もサロンを利用して良いのでは？

⑥課題（主に、ボランティア希望者への情報提供について）

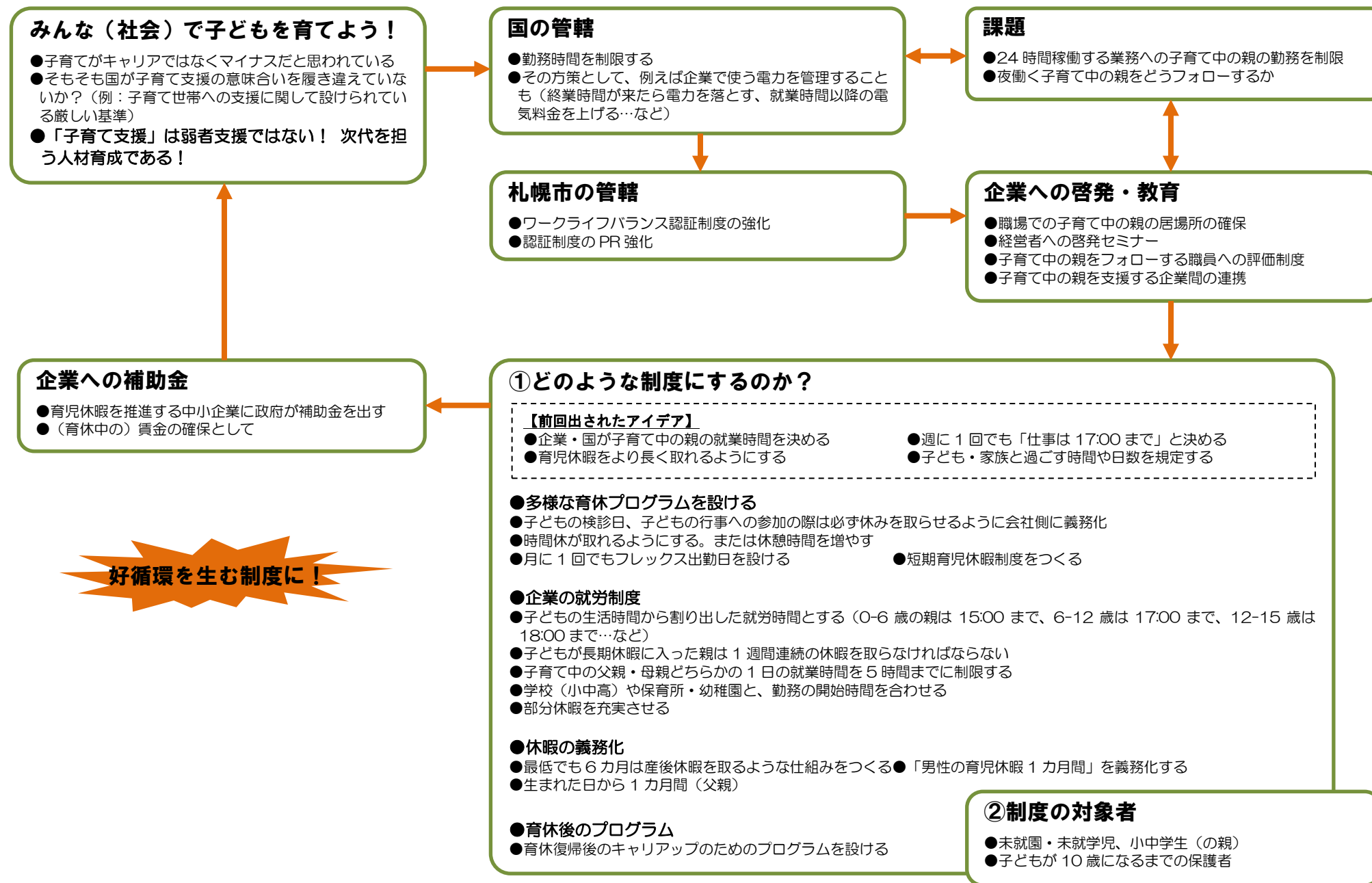
●ボランティアをしたい人に情報が届いているか？

- サロンの情報をさらにネット配信する
- ちあふるからもっと情報発信をする
- 講座等の先生の確保（地域にいる特技を持った人 など）

●すでに利用しているママから新しく来たママに積極的に声をかけて輪を広げる

- 子育てサロン同士でネットワークをつくり協働する

子育て中の親に関する労働規制を設ける プロジェクト



君も明日から親になる！！～札幌仲良しパパママクラブ～プロジェクト（「子育て」のための教室・教育機会を増やす）

①何を？

【前回出されたアイデア】

- 現在「母親教室」は初妊者しか受けられない（二人目以降も受けられるようにする）
- 子どもが生まれてからも「母親／父親教室」を開く
- 検診時などに合わせて講座を開く
- 「初めての子育て教室／相談会」を定期的開催
- 父親教室を開催（産後のこと、子どもの世話の仕方など。子育てに関わるきっかけにもなる）
- 子育てに関する道徳的な事柄を教えることも必要
- おじいちゃん・おばあちゃん教室も必要
- 託児付きで
- 子育てに関する啓発チラシを病院・学校・保育園・幼稚園で配る
- 「子育てマニュアル」的なものをつくる

●講義十個別相談の場とする

- 困っていること、悩んでいることを相談できる「場」「人」をつくる
- 母親＋父親教室として父母同時に受講（子どもも参加）。夫婦で参加するとそれぞれの大変さ、他の家族の様子がよくわかるので
- 悩みを共有する

②いつ？

- タイミングが重要。親になることについてしっかり意識してもらえるタイミングか？
- 「親になる」ことがわかった時点
- 主に土日祝日か（平日も開催する）
- 乳幼児健診など子どもの検診時

③どこで？

- 場所はある！！近いところで
- 区をまたいでも受講できるようにしてほしい
- 地域にある児童会館や地区センター
- 地域の会館
- 保健センター
- 区民センター
- 小学校、幼稚園、保育園
- 保健所、産婦人科

④誰が？／誰に対して？

- 教えるのは経験のある専門家やお年寄り！！
- 講師を依頼できる人はたくさんいると思います、
- 子どもに関わっているNPO法人等
- 経験のある先生
- 保育コーディネーター、子育てに関わる仕事をされている方
- 赤ちゃんの発達については助産師・保育士
- 町内会のじいちゃん、ばあちゃん

- 同世代の子どもがいる親同士で相談し合える場を設ける
- 子育ての先輩ママ（子どもがいる保健師さん）

⑤どれくらい？（開催・受講頻度）

- 多様な人が参加しやすい日時設定で
- できれば月に1回など短いスパンでコンスタントに実施
- 月2～3回開催
- 3歳まで1年に1～2回受講する（3歳までが重要なので）

⑥どのように？

- 知ってもらうための取り組み（広報）が必要
- 母子手帳への記載（スケジュール、内容等）
- 初めての乳幼児健診時にパンフレットを渡す
- 札幌は健診の頻度が少ない
- 広報さっぽろ、新聞、チラシ

- 全員が参加できるように！！（強制も含めて）
- 裁判員制度のように強制的に
- 参加すれば助成を受けやすくする
- ポイント制・チケット制・会員登録

- 企業の理解など制度的なバックアップを

- 受講費用は無料か500円以内で

地域に共生型の場を設ける プロジェクト（地域に多世代交流の場を設ける）

共生とは？ ●共に生きる ●一人ひとりの弱さと強さがうまくかみ合わさって、一人ひとりが生かされる…こと

①何を行うのか？

【前回出されたアイデア】

- むくどりホームの事例（バリアフリー公園＋ふれあいサロン）
- どんな小さなことでも聞いてくれる人がいる、何かあったら逃げこめる・相談できる場所
- 子育てに悩みを抱えている方同士の交流の場を設ける
- 子どもを預けて親だけでコミュニケーションできるサロンがあれば良い
- 同世代以上に異世代との情報交換が役立つ
- 「子育て」に限定しない・子育て世代に限らない居場所
- 「行かなければいけない」と追込まれるようなサロンではいけない
- スーパーなどの片隅におしゃべりコーナーがあるとか
- アクセスの良い場所、身近な場所に設置

●集う

- 乳幼児から大人まで、障がいがあってもなくても集まれる場所
- 「ホーム」に集まる人たち（限定なし）。カフェのような形でも

●食べる

- カフェ＆バー（飲みニューケーション）
- 独居の高齢者もランチに来られるカフェ機能

●だべる

- だべる「おしゃべりする」。相談しあう

●助けあう、育ちあう

- 生活保護の人のボランティア活動（自立支援）の場として
- システムのすき間にいる人たち、少しはみ出している人たちの場
- 不登校の子の学校以外の居場所
- 「予防」になる！（孤立、認知症、生活保護などなど）
- 誰でもいつでも無料で行けるひろばを作る（障がい、老人子どもの枠を超えたひろば）
- （子どもを）預かったり預けたりがその場でできるような

●「共生型の場」の実現方法～既存の取り組みの活用など

- 子育てサロンの地域開放日を設ける（子育てサロンで地域の親子と高齢者・家族が共同イベントを実施）
- 長期休暇期間に「地域学校」を開設（地域の住民・学生が小中学生の夏・冬休みの学習や自由研究を手伝う「小中学校との共同」）

●「共生型の場」で実施する取り組み

- 障がい者・高齢者などのニーズを聞く調査をする
- 勉強会・講習会・ワークショップなどを開催して意識を高める
- 廃品回収フリーマーケット、バザー

②いつ行うのか？

●いつでも

- 昼間 10:00～15:00、夜間 17:00～21:00
- 土日も

③どこで行うのか？

- 地域の中で
- 空き家・空き店舗
- まちセン・学校・ちあふるの利用（多世代が集まれる場所）
- スーパーなどの片すみコーナー（ただ小さいテーブルと椅子があるというだけでも）
- バリアフリー公園＋ふれあいサロン。小さなものを市内各所にたくさん設ける（バリアフリー公園がなぜ必要か認識を深めてもらう）
- 公園前の施設
- 町内会館

④誰が？誰に対して？

- 多世代→みんな
- 人と人をつなぐ「人」を育てる
- NPO が地域住民に対して
- 対象：子育て中の人、障がいを持った方、ひきこもりの方
- まちづくりセンターの充実（コーディネーターを置く）
- まちセンの所長が変わっても良いようにコーディネーターが「このまち（地域）のあり方」をしっかり考える

⑤どれくらい？（費用負担）

- 補助金が3分の2、運営団体の自己資金3分の1（お金を出す→当事者意識が生まれる）

⑥どのように実現していくか？

- 共生の場には地域コーディネーターが必要
- 情報のコーディネートも必要。どこにどんな人がいてどんなことができるか…を把握する必要がある
- リーダーさんの養成が必要

- 行政の参画
- 補助金を出す

- 企業の参画
- 企業からの資金援助→企業にもメリットがある
- 「この製品の売上の一部は子育て支援活動に使われます」として製品に付加価値をつける
- 運営団体の広報誌に企業PRを掲載「〇〇社は〇〇を応援しています！」

- 地域の人の参画
- じいちゃん・ばあちゃん、若者、子ども、親子、障がいを持った人

⑥-1 実現に向けての課題

- 相互協力＝縦割りをなくす
- 行政の横のつながりも必要（保健センター、まちづくりセンター、社会福祉協議会）
- どうやって参加者・担い手を増やすか？

⑥-2 課題の解決策

- 町内会・民生委員など、まちの情報を持つ人たちと行政がもっと近くなる
- 利用者からボランティア、そしてスタッフへ
- 「障がい」「子ども」「高齢者」の枠を超えた「共生型ひろば」の枠・制度をつくる。または、既存のものに付加する
- 地域の人たち、まちセン、NPO、関わるみんながスキルアップする必要がある

プロジェクトの効果

- いろいろな世代の人が集まることによって良い関係性が生まれる
- 異世代の人と交流すると互いに教え、教えられる
- 誰でも来て自分の居場所を見つけられる
- 生活保護が少なくなる→市の財政が楽になる